

第9回総会議事録

第9回「炉物理部会」総会が、近畿大学21号館で開催の「原子力学会 1998年春の年会」の第2日('98/03/27)に開かれた。当日の主な議事、報告事項を以下にまとめる。

平成10年度運営委員の紹介

部会ニュース(No.7)(平成9年12月25日発行)で予め部会員に周知された平成10年度運営委員候補者に対して、本総会で拍手で以て承認された。承認された平成10年度運営委員は以下の方々である(敬称略)。括弧内は任期を示す。

| | | |
|-----------------|------|--------------------|
| 部会長 (1年) | 北 大 | 成田 正邦 |
| 副部会長 (1年) | アイテル | 青木 克忠 |
| 庶務幹事 (1年) | 北 大 | 沢村 晃子 |
| 財務小委員会 (1年) | 九 大 | 工藤 和彦 (留任) |
| (2年) | 日 立 | 三田 敏男 |
| 編集小委員会 (1年) | 日 立 | 丸山 博見 (留任) |
| (2年) | 近畿大 | 橋本 憲吾 |
| (1年) | 東北大 | 岩崎 智彦 (部会ホームページ担当) |
| セミナー小委員会 (1年) | 東 芝 | 川島 正俊 |
| (1年) | 東 芝 | 三橋 偉司 |
| 学術研究交流小委員会 (1年) | 京 大 | 小林 啓祐 (留任) |
| (2年) | 原 研 | 大杉 俊隆 |
| 学生・若手小委員会 (1年) | 阪 大 | 北田 孝典 (留任) |
| (2年) | 原燃工 | 伊藤 卓也 |

財務小委員会 (工藤和彦/九大)

平成9年度の収支報告が行われた(別掲)。特に、部会ホームページ開設のためにノートパソコンを購入したことで、残高が約620万円であることが報告された。

学術研究交流小委員会 (小林啓祐/京大)

新たな試みとして、部会主催の懇親会(「原子力学会 1998年春の年会」の第2日('98/03/27))

18:00~20:00)を企画した。会費は、学生部会員は無料、学生非部会員は1000円、一般は3500円である。

学会専門委員会の提案

竹田敏一(阪大)氏から「核熱水力安定性」研究専門部会設立の趣旨説明があり、本専門部会を炉物理部会と熱流動部会の合同で学会へ申請することが審議された。その結果、申請することが了承された。なお、設立に当たり、両部会から会合・印刷費等の補助として各10万円を負担すること、収益があった場合には両部会で折半することが確認された。審議において、10万円を負担をする件について、報告書の作成、部会への報告、部会員には何らかの特点を設けることの要望が出された。後者の要望については、熱流動部会と協議の上、決定されることとなった。なお、専門委員会委員への希望者は、同専門部会幹事の竹田敏一氏へ連絡すること。

秋の大会 部会企画セッションについて

来る9月に開催予定の秋の大会(於 福井工大)での部会企画セッションのテーマが募集(〆切:5月中旬)された。

幹事会で検討されたテーマとして、「炉物理について、今後どのような研究があるか?」と、「臨界集合体が今後果たすべき役割」の2つが提案された。その他、別途提案がある場合は、学術研究委員まで連絡することが伝えられた。

学会委員会からの報告

(1) 企画委員会(山本宗也/東芝)

専門分野の分類について、学会入会時、論文投稿時、学会発表時で整合がとれていないので、分類の見直しが企画委員会で行われている。(近く学会誌に掲載予定)
今後の学会開催予定は、福井工大、広島大、新潟工科大、愛媛大の予定である。

(2) 編集委員会(岩崎智彦/東北大)

企画委員会からの報告で紹介されたように、専門分野の分類見直しが行われている。
欧文誌を国際会議の報文集として出版することを検討中である。ただし、国際会議に学会が協賛し、部会が全面サポートの場合に限る。

KUCA夏期大学院実験について

第8回「炉物理部会」総会において議論された「KUCAの維持費復活に関する要望書の提出」について、その後の経過が報告された。要望書は、1月28日に文部省へ提出された。文部省から、各大学の未臨界実験装置の整理がまず第一であるとの提示があった。また、要望書提出後、京大本部から文部省へKUCA維持費が要求された(来年度1年限り)。

大学院生実験の実施期間が、平成10年度から従来の2週間から3週間へ増加したことが報告された。ただし、実験参加者の総数は変わらないとのことである。

炉物理夏期セミナー (川島 正俊/東芝)

第30回炉物理夏期セミナーの紹介があった。(本ニュース 項目2 を参照)

日時 : 7/29 (水) ~7/31 (金)

場所 : ウイング横浜 (横浜市京浜急行上大岡駅ビル内, 横浜市の研修・宿泊施設)

テーマ : 「原子力プラント保守技術・寿命評価に係わる炉物理の現状と課題」

「プルトニウム利用炉の炉物理の現状と課題」

その他

Nuclear Science and Engineering への投稿方法について

Nuclear Science and Engineering のアジア担当編集者から、炉物理部会(仁科先生経由)への、投稿方法の確認に関する手紙が紹介された。同内容は、Nuclear Science and Engineering の投稿規定にも記載されている。